

# 共同運営部門：患者サポートセンター

## 一概要一

2018年4月に「患者サポートセンター」を開設し、業務を遂行している。医師・看護師・MSW・理学療法士・薬剤師・栄養士・事務職員などの多職種のスタッフが集い、「安心を届けるサポートセンター」～入院前から退院後も一人ひとりを支えます～をスローガンに、地域の医療機関からの紹介窓口や入院前の支援だけでなく、幅広く医療サービスの提供に努めている。

## 1. 地域医療連携室の活動実績

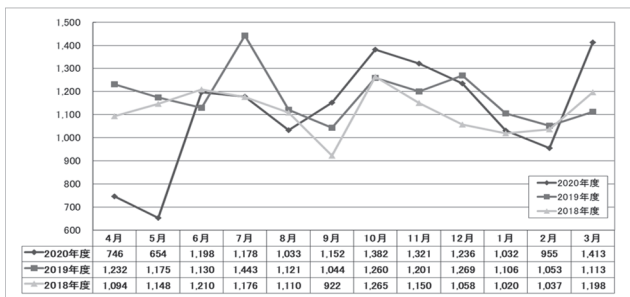
### 一業務一

地域医療連携室はかかりつけ医である開業医の先生方、地域の病院の先生方、介護関連事業所の担当者様と連携を図り、紹介・逆紹介を活発にし、良質な医療を提供し地域医療に貢献していくための対応窓口としての業務をおこなっている。また紹介患者受入の際にも医療知識を有した看護師が対応することで適正な判断が実現でき、質の向上にもつながった。

### 一実績一

地域医療予約件数(2020年4月～2021年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予約件数	746	654	1,198	1,178	1,033	1,152	1,382	1,321	1,236	1,032	955	1,413	13,300



※地域予約件数(月別)を年度比較した数値をグラフ化したデータ(2018年度～2020年度)

### ①紹介率・逆紹介率(2020年4月～2021年3月) (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紹介率	68.1	75.1	76.3	75.0	58.6	73.4	71.3	78.6	74.8	76.3	68.0	72.8	72.2
逆紹介率	193.0	191.6	158.5	151.2	132.1	159.4	142.8	172.5	187.1	181.3	177.5	160.9	163.8

※地域医療支援病院用の算出基準にて率を算出

地域医療支援病院の要件である「紹介率が50%以上かつ逆紹介率70%以上」を十分に達成した。

### ②地域連携クリティカルパス導入件数(2020年4月～2021年3月)

地域連携クリティカルパスの導入に積極的に関わっている。

#### ●がん地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳がん	3	3	0	2	0	0	2	0	0	2	2	4	18
胃がん	3	1	0	2	0	1	1	2	2	2	3	1	18
大腸がん	5	5	2	3	2	3	1	2	3	1	3	3	33
合計	11	9	2	7	2	4	4	4	5	5	8	8	69

#### ●脳卒中地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳卒中	11	20	17	12	8	17	10	20	24	13	14	14	180

#### ●大腿骨地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大腿骨頸部骨折	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	2	9

### ③医療従事者対象の勉強会・研修会(事務局)

地域医療連携室では、医師会等、地域の医療従事者

向けの勉強会・研修会の事務局の役割を担っている。

＜りんくうカンファレンス＞

＜クリニカルレベルアップセミナー＞

【詳細は院内行事のページ参照】

#### ④市民健康講座の開催

＜市民健康講座＞

8月・12月を除く毎月第3土曜日に、市民健康講座を開催しているが、本年度は感染対策のため全て中止とした。

【詳細は院内行事のページ参照】

#### ⑤その他

＜りんくうメディカルネットワーク＞

地域医療機関とのコミュニケーションを図ることを目的として直接顔を合わせる場を設定している。

▶第6回:2020年11月28日、WEB形式で開催した。

## 2. MSWの活動実績

### 一業務一

MSWは患者とその家族の生活や傷病の状況から生じる経済的・社会的・心理的不安や問題等の解決に必要な社会資源の情報提供や活用の助言・指導等を行い、院内の関係職種・地域の関係機関との連携を密にし、患者が安心して療養できるよう支援することを目的とした業務をおこなっている。

医療費の助成制度、生活費に関すること、転院やかかりつけ医紹介、在宅医療・介護、社会保障制度、家族関係の問題など多岐にわたる相談に応じている。

### 一実績一

早期退院支援に向けた継続した取り組みとして各病棟で週2日、退院支援カンファレンスを行い、入院前の生活状況、介護福祉サービスの利用の有無、退院後の生活課題等、情報を共有し、患者・家族に入院後早期に退院支援が行えるよう取り組んだ。(実績:4,334件)

退院調整においては、件数としては例年通り、転院調整が最も多く、調整件数は1,200件(前年度は1,186件)と、1月あたり約100件(入院患者のみ)の調整ということになった。また退院前におこなったカンファレンスについては前年度と比較して減少(介護連携306件から219件、共同指導209件から172件)しており、コロナ禍の影響もあったと考えられる。地域の関係機関との連携を強めながら、患者が安心して退院後の生活を送れるよう継続して取り組んでいく。

### 一対外活動実績一

#### ①大阪府産婦人科医会

安心母と子の委員会、泉佐野市周産期支援部会等 は例年活動しているが、今年度はコロナ禍で開催なし

#### ②南泉州地域医療介護連携協議会

泉州圏域における医療介護の連携体制の現状と課題・これからの連携について協議を例年行っているが、今年度はコロナ禍で開催なし

#### ③大阪緊急連携ネットワーク 地域連携担当者会議

3次救急病院と慢性期病院の連携についてオンライン協議

④大腿骨地域連携パス会議

泉州地域における大腿骨地域連携パスの運用についてメール会議

⑤脳卒中泉州地域リハ連携会議

南泉州地域におけるリハビリに関する課題について、急性期病院、回復期リハ病院、医療療養型病院、連携開業医と情報共有をおこない、地域連携パスの運用について協議(年3回メール会議)

—各種調整実績と成果—

【転院調整実績】

	2019年度合計	2020年度合計
外来から他院	47	38
入院から他院	1,186	1,200

【在宅調整実績】

	2019年度合計	2020年度合計
在宅	439	438
(介護連携)	306	219
(共同指導)	209	172
施設	113	131

3. 看護師の活動実績

—概要—

看護は入院前管理機能、退院支援、退院後訪問活動、ベッドコントロールなどの分野を担っている。

手術決定時からの術前介入は2017年度より開始し今年度は泌尿器科、口腔外科の手術症例の介入も開始した。介入件数は前年度より181件増加した。総介入件数の診療科別では総数の37%が外科、29%泌尿器科、21%整形外科と3診療科が上位を占めていた。介入した中で15%が入院期間延長していた。延長理由としては家族迎えなどの患者側の都合によるものが大半を占めていた。その他では感染、縫合不全、イレウス、せん妄などによる治癒遷延、治療方針の変更などであった。術前から自宅でリハビリ実施していた患者は全体の68%、歯科受診した患者は全体の64%であった。術後肺炎併発患者は1名で誤嚥によるものであった。これらの術前介入は術後廃用症候群の予防や術後肺炎予防に効果があると考えられるため継続した活動が必要である。

入院決定時間診では問診のテンプレート作成し情報収集漏れのないように工夫した。早期から退院後の生活を想定し退院困難な理由を抽出するように努め病棟、MSWへ情報連携するように活動した。4月の時点で入院時支援加算算定1(230点)の割合は全体の19%と低く入院時支援加算算定2(200点)が多くを占めていた。そこで算定出来ない理由を分析し対策立案、実施した。結果、入院時支援加算算定1が全体の91%を占めるようになり経済効果も高まった。

新型コロナ感染症の影響で退院後訪問活動は積極的に実施できなかった。ベッドコントロールにおいても大きな影響を受け感染状況に応じた柔軟な入院病床の編成、調整が求められた。病院全体の稼働率は低迷したが一般病棟での稼働率は92.7%と高い稼働率で推移した。

その他PCRセンター開設に伴う検査介助、術前PCR実施に伴う患者案内、検査結果確認、新型コロナウイルスワクチ

ン接種に対する看護師の応援、感染症病棟への看護師応援など多岐にわたって活動した。

—実績—

加算項目	算定件数(2020年度)
入退院支援加算1	4,228件/年
入院時支援加算1(230点)	953件/年
入院時支援加算2(200点)	216件/年
介護支援連携加算(400点)	496件/年
術前支援	1,128件/年
入院前リハビリ指導	447件/年
口腔機能管理加算	25件/年
嚥下スクリーニング	2,065件/年
認知症スクリーニング	2,585件/年
クリニカルパス説明	998件/年
入院決定時間診	2,209件/年
出張問診件数	875件/年
退院支援カンファレンス参加	4,249件/年

—今年度の成果—

- ・術前支援の拡大
- ・入院決定時間診の質向上  
(入院時支援加算1の算定率上昇)
- ・退院支援カンファレンスへの参加
- ・柔軟なベッドコントロール
- ・新型コロナ感染症に伴う支援体制構築

—来年度への抱負—

患者サポートセンターの開設から丸3年が経過した。対外的な病院の窓口として、医療・介護または関係機関等の調整窓口としての機能は果たしている。

院内の機能としても、さまざまな部門の支援を中心とし、機能的に活動できており、診療報酬請求の面でも、病院へ貢献できています。

次の目標は、さまざまな支援における質の向上を目指して、さらに多方面での取り組みをすすめていく。